



見える化！透明ごみ箱



県立大分商業高等学校 商業調査部の皆さん



きちんと分別！

# 「知ってるけどやってない」

ごみの減量や再資源化を推進するためには不要となるものを量ができるだけなくし、不要となったものはできるだけ資源にして再生・再利用することが大切です。今回のリサイクルおおいたでは、県立大分商業高等学校商業調査部の緒方朱里さんに「ごみ問題の解決」の取り組みの様子を語っていただきました。

「えっ、ひどい  
どうにかしないと」

それは、商業調査部の活動テーマを探そうと思いつながらニュースを見ていたときのことです。クジラの体内に大量のプラスチックごみが入っている映像にショックを受けたときの思いでした。

私たちの商業調査部では、たくさんの人たちと一緒に協力し合いながら実践することで社会貢献につながる調査研究を活動テーマにしています。今年は、このニュース映像をきっかけに「ごみ問題の解決」を活動テーマとすることにしました。

昨年度までのさまざまな調査研究から、まずは私たちが情報発信をすることで「共感」してもらえ活動が必要だと思い、学校でのごみ問題の解決に取り組みました。

「できることからはじめよう」

学校のごみの問題に取り組むことで「4R（※1）や「3きり運動」に取り組むことが大切だと知りました。「使いきり食べきり・水きりの「3きり運動」に取り組み、食品ロスと生ごみの量を減らす」「着なくなった服、読まなくなった本を必要な人に譲る」「服のリメイクなどを行う」「エコバッグや販売店でもらった丈夫な袋を携帯し、レジ袋を断る」など、身近でできることから取り組んでいきたいと思っています。学校から出るごみは事業所から出るごみとしての分別で、家庭から出るごみの分別と違っていることも分かりました。

これからは学校でのこの経験を生かして家庭でのごみ分別にも取り組んでいきたいと考えています。

「見えるからきちんと分ける」

学校での自分たちの普段のごみ捨てを振り返ってみました。ごみ箱がごみの種類で分かっているのに、缶と紙パックは分けないといけないと「知っていても やってない」状況でした。

そこで、ごみ箱にごみ問題の現状の説明板を取り付け、さらに、ごみ箱を透明にすることで「見える化」すれば、捨てる人も「分別しなければ！分別しよう！」という意識も高まると思います。透明ごみ箱を設置しました。捨てる人の導線や分別の表示などに試行錯誤しましたが、設置してからは以前よりもペットボトルのキャップやラベルが外されるようになり、その他のごみも分別状況は格段に良くなりました。

「透明にして分別の表示があるから分けて捨てやすい」「中身が見えないごみ箱だと、どこに何を捨てていいかわからなかったが、中身が

見えて分別意識が高まった」など、みんなからアンケートの回答がありました。また、自動販売機の設置業者からは「分別が良くなった。透明ごみ箱を継続して設置して欲しい」との要望もいただきました。

今回は期間限定での設置でしたが、今後は継続的に学校に設置していきたいし、企業やコンビニエンスストアからご協力をいただければ新たに設置していけたらと思っています。